



# 路政春秋

## ドイツの道路を知る

歐羅巴を自動車で旅行した隈部氏の實見に依ると「ドイツの道路は殆ど何處でも舗装してあつて、道の兩側には大抵並木が植へてある、曲り道の附近の並木の幹は地上二メートル位の高さの處が白く塗つてある、夜走つて居るとヘッドライトの光に照されて遠くからでも道が曲つて居る事がよく分る、新しい道の路面はコンクリートが小さい賽ころ形の石で舗装してあつて表面が平である事は残念ながら日本の舗装道路の比ではないと思ふ。驚いた事には賽ころ形の石で舗装した道の路面のよきで自動車

で走つて一番氣持よく走れた、ナチスになつてから自動車交通の改造には特に力を入れて居るとの事、國立自動車道ライヒスオートバーン——といふのを盛に造つて居るがカールスルーエとフランクフルト間の二十餘軒の間のもは昨年出来上つて交通を許して居る、時速百軒以上を出しても危険を感じない云々（東朝記事に依る）と、又アメリカではニュージャーシー州及南北カロライナ州を中心として盛に綿布道路舗装が實施され漸次各地方にも普及の情勢である、此舗装用の綿布は其用途の爲に特製されたもので弾力性に富み凸凹の生じない強い綿布アスファルトであるとの事が某誌

### 注 意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

に載せられてあつた、路政界に權威ある道路改良會でも此種の海外路政の調査を爲しドシ／＼我々地方在住の者に新知識を與へてもらいたい。（甲陽生）

### 踏切事故の絶滅策か

鐵道軌道上の踏切り平面交叉點に於ける事故は自動車の發達普及と相俟つて加速度的に増加しつゝあるが此は交通界に於ける重大なる社會問題である、此事故の發生を防止せんとするには平面交叉の立體化即ち跨線橋か又は跨道橋を設けるの外なきは敢て論議するまでもない處である。併し主として鐵道が國營に屬し道路がまた國の事業

たる点からのみ觀察を下し鐵道省自動車課長菅氏の如く其負擔が結局國民に歸するのであるから鐵道事業の如く特別會計に依つて經營する側では道路構造に關する經費を負擔すべきものでない、と主張する者があつたならばが實施は至難である故に先づ鐵道と道路との平面交叉撤廢に關する根本方策を確定し其撤廢除去の順序、方法立體交叉の設計(場所的關係)經費負擔の方法等を充分調査研究して一日も速かに其の實行を要求するのは國民の全部であらう。斯の如き事案は既に已に大正八年道路法實施の當初に於て決定する所であつて今更ら云爲すべきものではないが未だ實施を見ないのは何んたる怠慢事であらうか、然るに頃日耳にする處に依れば道路改良會が主催して關係官吏中から委員を舉げて其計畫實現を促進して居るとの事である、我等は双手を舉げて養成する、机上の空理虚論よりは此の企てが我等國民の實生活に即した價値ある問題である委員各位の淬勵努力を悃願するものである。(武藏野生)

## 七哩の大鐵橋の出現

關門海峡に架する鐵橋は我國に於ては稀有な大長橋であるがスウェーデンとデンマークとを結び付けるバルト海口に架設せんとする鐵橋は實に七哩の長きに渡ると云ふ即ちスウェーデンのマルメーからデンマークの首都コーペンハーゲンに至るものである、之がスウェーデン、技術家に依つて立案せられた、此の計畫一度發表されるや兩國新聞界は勿論當局筋さへも多大の賛意を表して居る。同計畫によれば鐵橋は全長七哩で内六哩を鋼鐵で組立て、中央一哩だけをコンクリートの高架橋として船舶の航行を自由ならしめる。更に鐵橋西寄の橋詰には四哩に亘る大突堤を築き遠く海中に突出させると云ふ雄大さである。

工費一億三千二百萬クローネと見積られ

て居る。右大計畫の可能性はスウェーデン國道建設局長初め専門家も均しく認めては居るが、唯だ經費の巨大な點から實現が危ぶまれて居る。(謠橋子)

## 机上餘讀

○「人往々にして一事に凝る時は明敏なる智識の働きに備倚を生し故意又は過失的に常識の測定を用ひざるに至るものである。……相戒めて社會の全面を正視し圓滿無缺の知識を涵養し眞直な大道に依りて以て國家の發展に努め云々」とは佐野利器博士(技術の日本三月號卷頭言)の所論である。實に然りである、吾人も亦斯く言はんとする佐藤一齋曰く「積<sub>レ</sub>新若<sub>ク</sub>一、火則就<sub>ニ</sub>其燥<sub>一</sub>、平地若<sub>ク</sub>一水則就<sub>ニ</sub>其溼<sub>一</sub>、榮辱之至、理勢之自然、故君子慎<sub>ニ</sub>其所<sub>一</sub>招と。善哉言。

○道路の保安上路面勾配關係は頗る重要性を有する、道路構造上充分に研究を爲さねばならぬ簡單に横斷勾配のみで縱勾配を必

要としないものであるとは考へられない、

(本誌二月號小澤技師道路構造令並同細則改良案要項參照) 三月號工學研究の「舗装面の排水に對する縦勾配の影響」等一讀する價值あるを感ず。

○道路事業の經濟化は路政發展上必須的な事項である、之が研究企劃は其の資料を古今に求むることが有益なることは言ふを待たない野村兼太郎氏の六郷川渡船について(三田學會雜誌三月號)の一文を讀んで裨益を受くることが少なくない。

○滿洲に於ける土木事業特に國道工事の進捗の狀況は日滿兩國の關係方面から見ても又路政に干與するものに取つても之を知らんことを欲する所であるが佐藤俊雄氏の新京吉林國道工事報告(土木學會誌三月號)の如き一般資料たるを失はないものである。(銀魚子)

## 氣持のよい宣傳

路政春秋

思想混亂の現時に於ては政治の歸趨する所も容易でないので政治家も學者も思ひ心の説を唱道しわれこそ天下の經綸家であらうとの聲明や宣傳が多くて聊かのされた感があるが頃日紫雲莊主人の宣傳は氣持のよいものである 我國の各國務大臣なる者は如何に一人の處を得ざる者の存在をも悲しみ、如何に一人の生命をも重んじ、又如何に一人の失業者の救済の爲めにも無私の大愛と無限の創造力とを發揮するものであるかと云ふ事を諸公が事實の上證明して云々 々と述べ國民生活安定策の一として 國國的に道路網を完成する事も國防上及各地方の産業的發達を計る上より最も必要の事である……但道路の開鑿には單に一定の請負業者及一定の労働者のみを使用せず、多少の不便を顧みず専ら其地方の失業者を使用すべきであつて若し使用すべき失業者なき地方の道路は當然あと廻はしとして差支ない、又新道路と地方産業との關係を能く

考慮して徒らに草茫たる道路を多くせざるの用意も肝要である と言くが如きは確かに我意を得たるものである。(赤水子)

## 港灣法の制定を望むもの也

土木行政として道路、河川、港灣の三つものは三位一體としての働きを爲してこそ土木事業の完備である。此三事業が跛行的である場合に於ては其國の文化は矢張跛行的であると謂はざるを得ないであらう。案ずるに河川に對しては明治二十九年四月法第七十一號を以て河川法が施行せられ、道路に就いては大正八年四月法第五十八號を以て道路法が實施せられたが獨り港灣に對しては未だ港灣法の制定を見ないのである。産業の發展交通貿易の發暢を圖り以て國力の充實を企つことが兵力的國防と相並んで此非常時局の重大對策である。産業の發達と交通貿易の發暢を圖らんとせば河

川の整理、道路の完備と港灣施設の改善と港灣能率の増進の基礎たる港灣法の施行を必須的行政と斷すべきものである。予は道路法及河川法に改正を加へ港灣法を制定し彼此の關聯を保ちて此三事業の三位一體としての機能を十分に發揮せしむるの策に出でられんことを切望する。(春陽生)

## 世界的諸問題解決の鍵

は！

世界各國を通じて社會上幾多の問題が發生して居る。學力も智力も武力も之を解決するの力がない。唯物主義のマルクス一派が其の解決は唯物史觀にありとして「宗教は阿片なり」と嘲りて宇内を風靡せんと企てたが世界中最も重壓を以て國民を支配したロシアに於て國政を左右することを得たのみで他の各國は伊太利獨逸を先頭に却つてファッシズムを尊重せしむこととなつたが、果して世界に發生せる問題を解決する

のはマルキシズムであらうか夫れともファッシズムであらうか最近英國の婦人 Hebe Spaul が「World Problems of today Explain for Boys and Girls」なる一小冊子を著作して今日世界の問題となつて居る。ナショナリズムの衝突、マヂョルチーとマイナルチーとの關係、ファッシズムとヴォルセイズムとの關係、プロレタリアト政治、Production (生産) と Distribution (分配) との關係、Over population 問題、人種問題、internationalism、軍縮問題、世界教育問題、協力か競争かと云ふ十一問題を捕へ來つて之が解決の鍵を提供して居ると。其オーヴァー、ポブレシヨンの章に於てイタリー、獨逸、日本等の諸國は最も人口過多に苦しんで居る故此等の國々はこの問題を解決せんとして苦肉の策を講じて居るエチオピアを侵略しつゝある伊國は即ち此國策の遂行に外ならぬ。極東日本が夙に目ざめて世界五大強國

の一に加はり頽りに人口のはげ口として亞米利加南洋支那等に移民又は殖民を爲さんと企てたのは實に己むを得ざる趨勢であるが人口稀薄な諸國では新興國民の入國を拒むの策に出で北米合衆國の如きは特に法律を制定して排日の策を立てた、そこで日本全國に涉り國民に義憤の空氣が生じた、今迄日本人に對して友情的に國際聯盟を通じて互に援助せんとした國々までが轉向して日本を抑制せんとしたので遂に日本國は一九三一年に兵力を以て滿洲を獨立せしめ自己の勢力圈内に在らしめ尙國際聯盟を脱退し又軍縮會議をも離脱しソヴィエツトロシアや支那を驚かしめ英米をして猜疑嫉視せしめた之れは日本民族の膨脹力を無理に抑壓したる結果であると看破して論ずる所など著者は中々の達識活眼の女子であると思はる吾等も眼を廣くして世界の大事を觀察せねばならぬことを教へられる。

(逃)